



祝祭日には



を掲げましょう

## いまこそ集落創生

第31回 山崎地区

山崎地区の大切な記録である「愛宕通信」。地区文化部が一年の活動のまとめとして発行しており、34年間続いている。



羽州街道（現国道13号線）に沿った山崎地区。江戸時代から明治22年までの村名は「山崎村」。近世期になって農業が著しく進み、米やニラ農家が多い地区となりました。現在は75世帯、263名がこの地で暮らしています。

地区のローガンは、「山崎地区は町の玄関口です。祝祭日には、国旗・町旗を掲げましょう！」だと小野富雄区長は話します。町に入ってきて、一番最初に目にする街並みだということを自覚し、わら坊の花植え、ゴミ拾い、掃除など地区の環境整備にも力を入れています。山崎の数多くの年中行事の中でも、昔から行われてきた「山の神の勸進」はいつ頃から始まったのか、その由来や歴史は明らかではありませんが、15歳までの男子が、春先に地区内を練り歩く姿は、恒例行事となっています。平成27年には、高齢者のコミュニケーションの場として、グラウンドゴルフ愛好会を立ち上げました。年に数回、大会を開催し、その後は参加したみんなでお酒を酌み交わし、賑やかに交流しています。また、金山を代表する金山祭りに山崎地区からも山車を出していますが、山車の製作など負担が大きく、存続について議論したことも少なくありません。しかし、「元気なところには祭りがある」と若い世代からも地区を元気にするために頑張ってもらっています。このように山崎地区は全世代で地区を盛り上げるために活動しています。他の地区と同様、人口減少の問題に直面していることも現実です。「少子高齢化における地域のコミュニティをどう築いていくか」を課題にし、地区負担金なども数年前から改善。経費を使わず、少ない人数でもしっかり運営していける体制づくりに今後も励み、「活気ある地区にしていきたい」と区長は意気込みます。

金山町の人口は、5,284人（8月末現在）

男性 2,589人（-2）  
女性 2,695人（-1）  
世帯数 1,753世帯

▼8月の異動  
出生 1人  
死亡 6人  
転入 5人  
転出 9人

編集  
後記

▼今月号で「いまこそ集落創生」の全地区の紹介が終わります。31地区、それぞれの歴史と地区の現状を皆さんに伝える事が出来たのではないのでしょうか。取材に協力してくださった区長の皆さん、ありがとうございました。

▼金山中学校の体育祭と明安地区の運動会取材しました。小・中学生の活き活きとした姿がとても眩しかったです。子どもたちの元気な姿が町に明るさをもたらしてくれるなど改めて感じました。